

サケの稚魚放流

再会を楽しみに

サケそ上の川、全国的にも有名になった栗山川。今年も一〇〇万尾のサケの稚魚が、子どもたちの夢をのせて放流されました。四年後には、大きく育った雄姿が必ず見られることでしょう。(3/27)



報道関係者の見守る中、放流される稚魚

俳壇



軒樋にからまる羽屑雀の子
海保 きみ
宇井 芝童



小さなバケツに入られる稚魚

喜びにあふれた ピカピカの一年生

お父さん、お母さんに連れられて元気良く校門をくぐるピカピカの一年生。町内3小学校で200名が入学しました。どの子も喜びに満ちあふれ、この日ばかりは親も子も幸せいっぱいという感じでした。(%)



わー、あなたと同じクラス
うれしいわあ～



元気に返事をするピカピカの1年生

雀子の巣ごと捨てあり草の上
向後 雅子
鈴木 草庵
臘夜や犬吠岬の灯も潤む
鈴木 南知
子雀や低く飛びつつ親を追ひ
津田 若菜
勤める子進学の子あり春は逝く
戸村 静華
行く春や濃き水たたえ神田川

文庫本伏せては目刺こがしつ
成田 様子
行方はじめ
行く春やはや中天に鯉泳ぐ
藤代 ゆう
雀の子プラットホームの瞳を集め
若梅あやめ
家中の手を借り箱苗種落し
(選者) 土屋 栗水
風紋に沁みとききけり春の潮



大木ユキ子さん
(東町 71歳)



川柳を生きがいに

川柳に老後を楽しむホケ防止
年令を感じさせない若々しき
その秘決を尋ねると、「この趣味ですよ」と短冊にしたためた一首を示された。
町職員として奉職すること30年、この人を知らない住民はないくらいに「戸籍のカンちゃん(愛称)」として衆望を集めました。
退職後は、3人のお孫さんと過ごす時間を楽しみに、家庭中心の生活を送りましたが、成長を遂げた後は、文芸・謡曲・小唄等に親しみ、同志を求めて戸外へ出歩くことが多くなりました。
とりわけ「川柳」がお気に入

りで、現在は八日市場市の万年青会へ籍を置き、作句に磨きをかけています。
川柳との出会いは、10年ほど前に公民館講座に参加したのが始まりですが、自分の性格に合ったもの、というのがこの道に入った理由とか。
「そんなに難しいルールもなく、明るくカラッとしたところが老後の趣味としては最適」と、分析してくれました。
大木さんは、この趣味の他にも、自らの人生訓である社会への恩返しを熱心にすすめる恵まれないアジアの子ども達(里親)や障害者への援助、親子三代にわたる母校横芝小学校への楽器の寄贈等を次々と実行して、老いを寄せつけない、心身を自らつくり上げています。

